

オーケーエム (コード 6229)

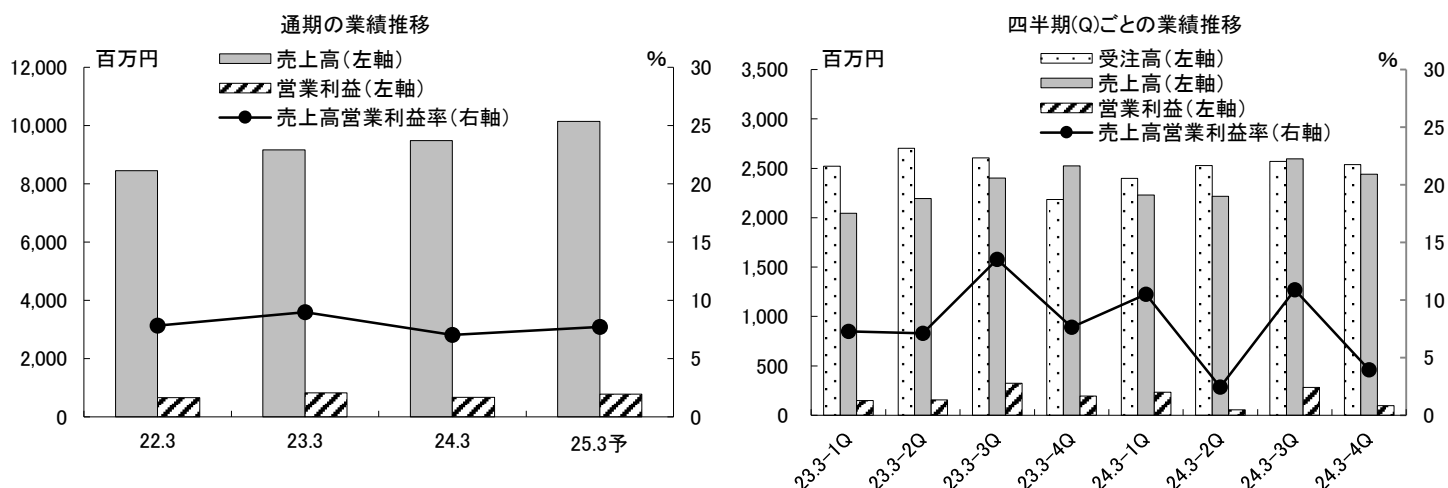
◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	8,456	662	188.1	45.0	993	▲237	▲695	2,713
23.3	9,164	823	169.8	40.0	▲1,294	585	▲557	1,560
24.3	9,484	667	113.0	40.0	628	▲249	▲629	1,337
25.3予	10,150	785	123.7	40.0	—	—	—	—

◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業損益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	3,858	248	112.9	0.0	273	▲179	▲358	2,303
23.3	4,239	305	49.7	0.0	8	▲198	▲334	2,366
24.3	4,446	288	51.1	0.0	▲102	▲82	▲315	1,089
25.3予	5,250	505	80.7	0.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



24年3月期の業績概況…24年3月期の業績は、陸用、船用ともに堅調に推移し、売上高が前年に比べて約4%増加した。利益面では、販売価格改定などが寄与したものの、上半期に実施した生産調整を主因に一時的に売上高が伸び悩んだことや、原材料及びエネルギーの価格高止まりなどによる売上原価率の上昇、販管費の増加などから、営業利益は約19%減少した。

当期の売上高は94億8,400万円(23年3月期比3.5%増)、営業利益は6億6,700万円(同18.9%減)、経常利益は7億4,900万円(同13.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)は5億1,100万円(同33.4%減)となった。

受注高は100億3,300万円(同0.2%増)で、市場別では、陸用49億6,900万円(同0.2%減)、船用50億6,400万円(同0.5%増)に。23年3月期の実績に比べ陸用は微減、船用は微増となったが、ともに23年3月期第4四半期(23年1~3月)を底に増加傾向となった。売上高については、陸用が47億1,100万円(同4.2%増)、船用は47億7,300万円(同2.8%増)で、陸用、船用ともに増加した。陸用については、建築設備関連向けの販売が低調だったものの、電力・ガス関連や鉄鋼・金属向けの販売が堅調に推移し、販売価格改定の効果も加わって売上高が増加した。陸用の主な業界別状況(単体ベース)については、建築設備向けが前年比26.9%減、石油化学向けが同5.2%増、鉄鋼・金属向けが同24.8%増、電力・ガス向けが同21.8%増、

その他が同 3.0%減となった。船用において、造船向けは、国内造船各社の人手不足を主な要因とする操業スローダウンの影響を受けたが、販売数量の増加や販売価格の改定効果などにより売上高が増加した。船舶排ガス用バルブについては、競合他社の価格攻勢が継続したことなどによって販売は低調に推移した。ただ、窒素酸化物 3 次規制に対応する環境規制対応船の建造比率の高まりを受けて需要は拡大基調にあり、また、LNG を燃料とする船舶の燃料ガス供給システム向け LNG 用バルブの販売が好調に推移した。

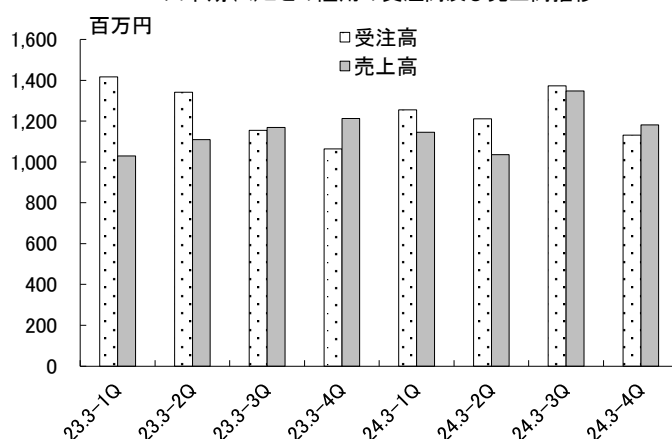
地域別売上高では、日本が 75 億 4,300 万円（23 年 3 月期比 9.2%増）、韓国が 6 億 5,700 万円（同 34.5%減）、中国が 6 億 9,700 万円（同 3.4%減）、マレーシアが 2 億 6,400 万円（同 14.7%増）、その他が 3 億 2,000 万円（同 6.5%増）となった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末現在の現金及び現金同等物の残高は 13 億 3,700 万円（23 年 3 月期末比 14.3%減）となった。営業活動による CF は、税金等調整前当期純利益 7 億 5,000 万円（23 年 3 月期比 23.2%減）、減価償却費 3 億 2,800 万円（同 0.9%減）、売上債権の増加額 4 億 9,700 万円（同 64.3%減）、棚卸資産の減少額 2 億 8,100 万円（23 年 3 月期は増加額 7 億 3,000 万円）、法人税等の支払額 3 億 9,200 万円（23 年 3 月期比 8.2%減）などにより、6 億 2,800 万円の収入（23 年 3 月期は 12 億 9,400 万円の支出）となった。投資活動による CF は、有形固定資産の取得による支出 2 億 300 万円（23 年 3 月期比 190.0%増）のほか、23 年 3 月期に計上された定期預金の払戻による収入 7 億 1,400 万円が当期は無かったことなどにより、2 億 4,900 万円の支出（23 年 3 月期は 5 億 8,500 万円の収入）となった。財務活動による CF は、長短借入金の返済による支出 4 億 1,700 万円（23 年 3 月期は長短借入金の借入れ及び返済による支出 3 億 1,300 万円）、配当金の支払額 1 億 8,000 万円（23 年 3 月期比 11.3%減）などにより、6 億 2,900 万円の支出（同 12.9%増）となった。

25 年 3 月期の業績見通し…25 年 3 月期の業績については、売上高 101 億 5,000 万円（前期比 7.0%増）、営業利益 7 億 8,500 万円（同 17.5%増）、経常利益 8 億 2,000 万円（同 9.4%増）、当期純利益 5 億 6,000 万円（同 9.6%増）の見通しで、陸用売上高は前期に比べ約 9%、船用売上高は約 5%それぞれ増える見込み。1 株当たりの年間配当金は 40 円の予定となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。

四半期(Q)ごとの陸用の受注高及び売上高推移



四半期(Q)ごとの船用の受注高及び売上高推移

